インターンシップを終えて

大学２学年

人権教育啓発推進センターで2週間のインターンシップをさせて頂きました。センターの皆様のご指導やサポートのお陰で様々な経験をすることができ、充実したインターンシップになりました。今回インターンシップをするにあたって、人権について書かれた本を読んだりインターネットで調べたりしましたが、人権はとても幅広いため曖昧な知識しか得られませんでした。ですから初めは不安な気持ちもありましたが、２週間で多くのことを学びました。

たとえば、国立ハンセン病資料館で行われた「ハンセン病と人権夏期セミナー」で、回復者の方の生の声を聞けたことはとても貴重な経験です。私自身、小中学校で部落差別やアイヌの差別について学ぶ機会はあったので通じるところがあり、様々な差別の実情について知り、考えるきっかけになりました。

また、コンパシートセミナーでは、新聞スクラップを使って人権について考えるグループワークをしました。他の受講者の方々は意欲的な方が多く、意見交換が活発で刺激を受けました。自分の意見を伝えるために必要な知識や読解力、発言力が私にはまだまだ足りないことを再認識しました。

更に、性的マイノリティーに関する冊子の制作も手伝わせて頂きました。使用する写真の撮影や選定、文やデザインのチェック等をし、撮影には劇団員の方や学生の方に協力して頂いて、カメラマンの方にイメージを伝えたり撮影のスケジュールを考えたりしました。初めての経験ばかりで、なかなかテンポ良くは進められませんでしたが、女性のカメラマンの方の出演者の方たちとの接し方が自然で参考になりました。打ち合わせやスケジュール組みも、実際に社会に出た時に役に立つと思います。貴重な時間でした。

２週間はとても短くあっという間でしたが、職員の皆さんは勤務中も勤務時間外も親切にして下さり、このような受皿があったからこそ充実したインターンシップを経験できたと思います。学校生活では味わうことのない、社会人として働く体験をすることができました。ありがとうございました。

（本寄稿は、平成27年度夏季において実習を受けた学生からのものです。）